

SW-KVM8HG  
SW-KVM16HG



最初に  
ご確認ください。

セット  
内容

切替器本体 .....	1台
ACアダプタ .....	1個
ラックマウント取付け金具 .....	2個
ファームウェアアップデートケーブル .....	1本
パソコン接続ケーブル(1.8m) .....	2本
取扱説明書・保証書(本書) .....	1部

万一、足りないものがございましたら、お買い求めの販売店にご連絡してください。

ご使用前にこのマニュアルをよくお読み下さい。また、お手元に置き、いつでも確認できる様にしておいて下さい。

デザイン及び仕様については改良のため予告なしに変更することがございます。本誌に記載の社名及び製品名は各社の商標又は登録商標です。

## 目次

3	安全にお使いいただくためのご注意 ・注意 ・お手入れについて 取扱い上のご注意
4	本マニュアルについて マニュアル表記について
5	特長
6	必要ハードウェア環境 ・コンソール ・コンピュータ ・ケーブル
7	各部の名称・説明 ・フロントパネル ・リアパネル
9	ハードウェアのセットアップ ・セットアップの前に ・1台でのセットアップ(1段階接続) ・ディジーチェーン接続によるセットアップ ・ホットプラグ ・ステーション位置の変更 ・CPUポートのホットプラグ ・コンソールポートのホットプラグ ・ポートID番号 ・電源オフ、再起動
12	ホットキー操作 ・ホットキーによるポートアクセス ・ホットキーモードの呼び出し ・ホットキーモードが有効になったら ・アクティブなポートの選択 ・オートスキャン ・スキャンインターバルの設定 ・オートスキャン呼び出し ・スキップモード ・ホットキービープ音コントロール ・ホットキー一覧表
15	OSD操作 ・OSD概要 ・OSDナビゲーション ・OSDメイン画像説明 ・OSDファンクション ・F1 GOTO ・F2 LIST ・F3 SET ・F4 ADM ・F5 SKP ・F6 BRC ・F7 SCAN ・F8 LOU

## 目次(続き)

- 23 ファームウェアアップグレードユーティリティ
  - ・アップグレードの前に
  - ・アップグレード開始
  - ・アップグレード成功
  - ・アップグレード失敗
- 28 ファームウェアアップグレードリカバリー
- 28 付録
  - ・コンピュータ接続表
  - ・OSDデフォルト設定一覧
  - ・ログインの情報の消去
- 29 仕様
- 30 ラックマウント
- 30 トラブルシューティング
- 保証規定

## 安全にお使いいただくためのご注意(必ずお守りください)

注意:下記の事項を守らないと事故や他の機器に損害を与えたりすることがあります。

取付け・取外しの時は慎重に作業を行ってください。(機器の故障の原因となります)  
次のような場所では使用しないでください。

- 直射日光の当たる場所
  - 湿気や水分のある場所
  - 傾斜のある不安定な場所
  - 静電気の発生する場所
  - 通常の生活環境とは大きく異なる場所
- 長時間の使用後は高温になっております。取扱いにはご注意ください。(火傷の恐れがあります)

お手入れについて

- 清掃するときは電源を必ずお切りください。
- 機器は柔らかい布で拭いてください。
- シンナー・ベンジン・ワックス等は使わないでください。

## 取扱い上のご注意

本製品を使用してパソコンを切替えて使用する際は、万が一に備えてデータのバックアップをこまめに行うことをお勧めします。(切替え時の不具合によるハングアップ、ケーブル抜け等)

## 本マニュアルについて

このユーザーマニュアルはSW-KVM8HG/16HGに関する情報や使用方法について説明しており、取付け配置方法、操作方法の全てを提供しています。マニュアルの構成については下記をご参照ください。

はじめに

本製品導入の目的・機能・利益の紹介、またフロント・リアパネルについて説明します。

ハードウェア セットアップ

本製品のセットアップ方法について説明します。単純な1段階接続からディジーチェーンによる32台の接続まで説明します。

ホットキー操作

本製品のホットキー操作について説明します。

OSD操作

本製品のOSD(オンスクリーンディスプレイ)詳細および操作方法について説明します。

ファームウェアアップグレードユーティリティ

本製品用ファームウェア最新版が公開されたときのアップグレード方法について説明します。

付録

マニュアル末尾には本製品についての技術情報およびその他の重要事項についてまとめてあります。

## マニュアル表記について

[ ]	入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
	番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
	印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
	矢印は操作の手順を示します。例えばStart Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。
	重要な情報を示しています。

## 製品特長

### 1組のコンソールで複数台のパソコンを操作

1組のコンソール(キーボード・マウス・ディスプレイ)で複数台のパソコンを切替えて操作できます。

### 19インチラックマウントキット付属

19インチサーバーラックに取付け可能(1Uサイズ)。取付け用金具付属。

### 多機能OSD(オンスクリーンディスプレイ)搭載

使用するユーザーレベルで、操作できるOSD画面を制限したり、コンソールから全てのパソコンを同時にシャットダウンさせるブロードキャスト機能、2レベルパスワードセキュリティ機能などシステム管理に便利な多機能OSDを搭載。

### 最大1,920×1,440までの解像度をサポート

高性能ディスプレイの画質を最大限に使用できる超高解像度1,920×1,440ドットまでの解像度に対応しています。

### Windows OSだけでなくLinux系OSにも対応

Windows OSはもちろんのことサーバー環境などで多用されているLinux系OSにも対応。

Windows OSとLinux OSの混在環境でも切替え可能です。

カーネルのバージョン・ディストリビューションの仕様により使用できない場合があります。

### オートスキャン機能搭載

一定時間間隔で自動的にポートを切替えるオートスキャンモードを搭載しています。パソコン動作状況の確認などに最適です。

### ホットプラグに対応

パソコンの追加・削除時に切替器の電源を切る必要がないためメンテナンスが簡単です。

### ディジーチェーン接続で最大512台までのパソコンをコントロール可能

別売りのディジーチェーン接続用ケーブルを使用することで、本製品を最大32台まで接続し、最大512台のパソコンをコントロールすることができます。(SW-KVM16HG使用時)

### ファームウェアのアップデートに対応

ファームウェアアップデートポートを搭載しているので本製品の機能を常に最新の状態でシステム管理することができます。

### オールインワンケーブルで簡単接続

キーボード・マウス・ディスプレイの信号を1つにまとめたオールインワンコネクタを採用しています。接続も簡単で見た目もすっきりできます。

### リセットスイッチ装備

ファームウェアアップグレード用ケーブル付属

## 必要ハードウェア環境

### コンソール

接続するコンピュータの解像度に適したVGA、SVGAまたはマルチシンク対応ディスプレイ  
PS/2キーボード  
PS/2マウス

### コンピュータ

以下の装置が各コンピュータにインストールされている必要があります。

VGA、SVGA またはマルチシンクカード  
ミニDIN 6ピン (PS/2)のマウスポート  
ミニDIN 6ピン (PS/2)のキーボードポート

### 注意:

本製品はシリアルマウスに対応していません。シリアル-PS/2変換コネクタを使ってシリアルマウスを接続しても正しく動作しません。

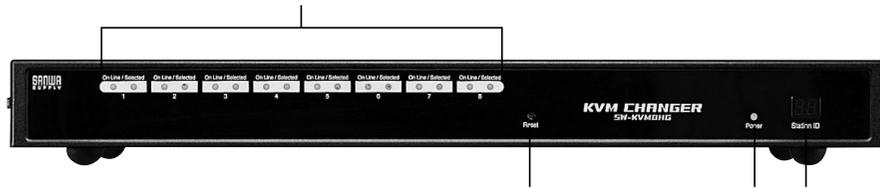
### ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下の本製品対応ケーブルをご使用になることを推奨いたします。

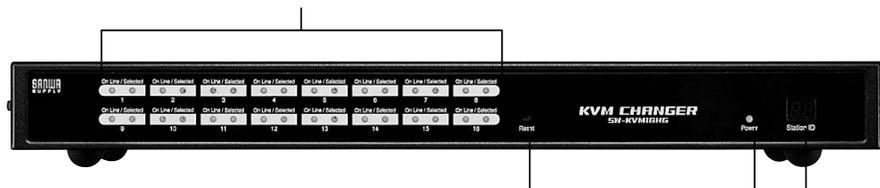
製品画像	機能	品番 長さ
	ディジーチェーンケーブル DB25オス-D25メス	SW-KDC60(0.6m) SW-KDC180(1.8m) SW-KDC300(3.0m)
	PS/2 KVMケーブル スイッチ側 SPDB-15 コンピュータ側 PS/2	SW-KLP120(1.2m) SW-KLP180(1.8m) SW-KLP300(3.0m) SW-KLP600(6.0m)

## 各部の名称・説明

### SW-KVM8HG フロントパネル



### SW-KVM16HG フロントパネル



#### ポートLED

ポートLEDは対応するコンピュータポートの状態を示します。各ポートに2個のLEDがあり、左側がオンラインLED、右側が選択ポートLEDです。

オンラインLEDがオレンジに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータの電源がオンで稼動中であることを示します。

選択ポートLEDがグリーンに点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータがKVMによって選択されていることを示します。通常の状況で使用されている場合でLEDが点滅しているときは、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。

初回起動時に自己診断を行います。その間オンラインLEDと選択ポートLEDは交互に点滅します。

#### リセットスイッチ

ピンホール型のスイッチで、システムリセットに使用します。このスイッチを押すにはペーパークリップやペンの先端など、細いものを使用してください。

#### 電源LED

電源LEDが点灯しているときは、電源がオンで操作可能であることを示します。

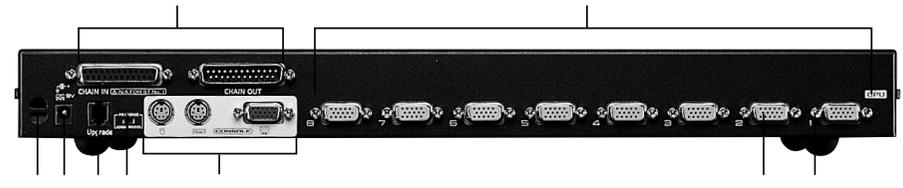
#### ステーションID LED

ステーションIDが表示されます。単体での使用による1段階接続、またはディジーチェーン接続の1段階目のステーションは01と表示されます。

ディジーチェーン接続の際、構成の中の位置を自動検出し、適切なステーションIDを表示します。

## 各部の名称・説明 ( 続き )

### SW-KVM8HG/SW-KVM16HG リアパネル



#### ディジーチェーンポート

ディジーチェーン接続するときは、専用ケーブル( P.6参照 )をこちらに接続してください。

#### コンピュータポートセクション

コンピュータとの接続に使用するKVMケーブルはこちらに接続してください。

注意:この15ピンコネクタは、このスイッチに対応するように特別にデザインされたものです( P.6ケーブル参照 )。このポートに通常のHDB-15コネクタを持つVGAケーブルを接続することはできません。

#### ケーブルタイスロット

ケーブルタイを使用してケーブルを束ねて整理したい場合は、このスロットでユニット本体に固定することができます。

#### 電源ジャック

電源アダプタはこちらに接続してください。

#### ファームウェアアップグレードポート

管理者のコンピュータに保存した最新のファームウェアパッケージを転送するファームウェアアップグレードケーブルはこちらに接続してください。

#### ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ

通常の使用時とファームウェアアップグレード中はこのスイッチをNORMALポジションにしておいてください。詳細はP.23をご参照ください。

#### コンソールポートセクション

単体での使用による1段階接続、またはディジーチェーン接続の1段階目のステーションの場合は、キーボード、マウス、ディスプレイの各ケーブルはこちらに接続してください。

## ハードウェアのセットアップ

### セットアップの前に

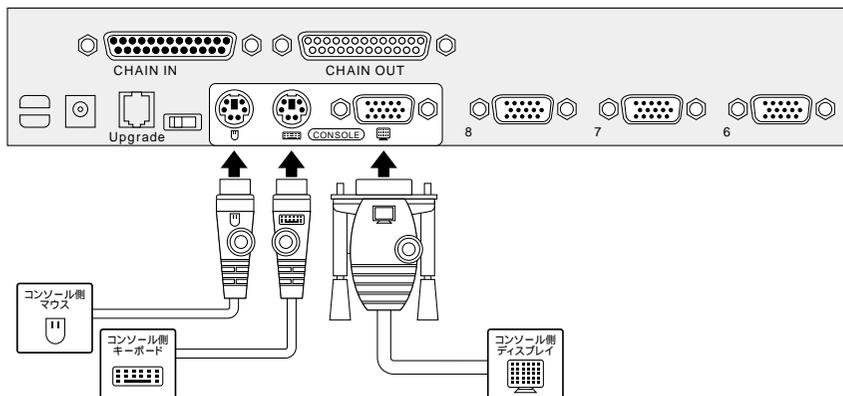


今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされていることを確認してください。

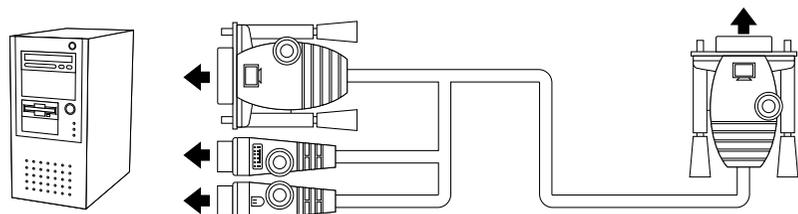
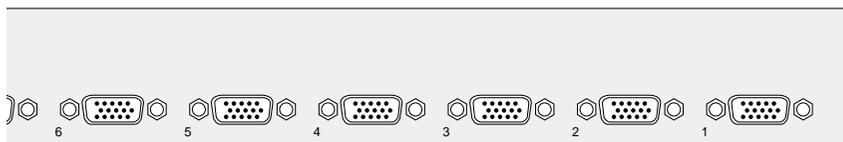
### 1台でのセットアップ(1段階接続)

1台のみのセットアップでは、他のKVMスイッチを使用することはありません。下記の図を参考にしながら下記の手順に従ってセットアップ作業を進めてください。

キーボード、マウス、ディスプレイの各ケーブルをリアパネルのコンソールポートに接続してください。ポートはPC99準拠のカラーリングが施されています。



接続するコンピュータを、KVMケーブル(P.6参照)を使用して、任意のCPUポートに接続してください。注意:このとき、ディジーチェーンポートは無視してください。ディジーチェーンポートは他のKVMユニットを追加するときのみ使用します。ディジーチェーン接続については次章で説明しています。



パソコンへ

同梱の AC アダプタをスイッチの電源ソケットに接続してから、AC 電源コンセントに接続してください。コンピュータの電源をオンにしてください。

## ハードウェアのセットアップ(続き)

### ディジーチェーン接続によるセットアップ

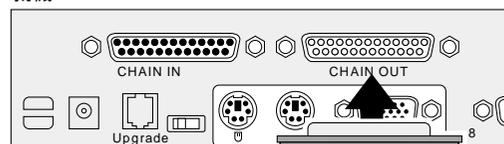
より多くのコンピュータをコントロールするために、本製品はディジーチェーン接続に対応しています。最大31台までのユニットを追加してディジーチェーン接続を行い、1組のコンソールから512台までのコンピュータを切替えて操作可能です。マニュアル末尾にユニット導入数とコンピュータ接続可能数の一覧表を掲載していますのでご参照ください。

ディジーチェーン接続を行うには、以下の手順に従い作業を進めてください。

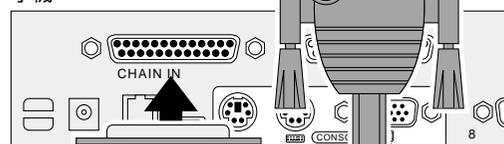
接続する全てのデバイスの電源がオフになっていることを確認してください。

同梱のディジーチェーンケーブル(P.6参照)を使用して、親機のチェーンアウトポートと子機のチェーンインポートを接続してください。

#### 親機



#### 子機



ディジーチェーンケーブル

KVMケーブル(P.6参照)を使用して、本製品のコンピュータポートと、接続するコンピュータのキーボード、マウス、ディスプレイの各ポートを接続してください。

この手順を繰り返して、ディジーチェーン接続する本製品ユニットを追加してください。

以下の手順に従って接続したデバイスの電源をオンにします。

- 1台目のステーションに電源アダプタを接続します。それからステーションIDが検出され、フロントパネルのステーションID LEDが表示されるまでお待ちください。(ディジーチェーン接続のステーションIDは1台目が01、2台目が02、3台目が03...となります)
- 1台目の起動後、2台目のステーションに電源アダプタを接続し、同様にステーションID LEDが表示されるのを確認してください。3台目以降も同じ手順を繰り返します。
- すべてのステーションが起動したのを確認したら、コンピュータの電源をオンにしてください。

### ホットプラグ

本製品はホットプラグに対応しているため、コンポーネントの追加や取り外しの際にシャットダウンをする必要はありません。ホットプラグ機能が適切に動作するように、ケーブルの接続作業は以下の手順に従ってください。

#### ステーション位置の変更

ディジーチェーン接続でのステーション位置の変更は、古い親機からディジーチェーンケーブルを抜き、新しい親機に接続するだけです。ケーブル接続の変更後、OSDメニューでステーション位置変更を反映させるために、ステーションIDのリセットを行う必要があります。詳細についてはP.20のRESET STATION IDSをご参照ください。

#### CPUポートのホットプラグ

CPUポートに接続したコンピュータの位置変更を行った場合は、手でOSDメニューのポート情報を変更する必要があります。詳細についてはOSDファンクションF3 SET下部メニューのSCAN/SKIP MODE ( P.18 )およびF4 ADM下部メニューの関係する項目をご参照ください。

注意:接続するコンピュータのプラットフォームがホットプラグに対応していない場合、CPUポートのホットプラグ機能は適切に動作しません。

#### コンソールポートのホットプラグ

キーボード、マウス、ディスプレイポートはすべてホットプラグに対応しています。ただし、マウスについてのみ、以下の点に注意してください。

- 同じ機種のマウスについては、自由にホットプラグを行うことができます。
- 異なる機種のマウスを接続する場合は、構成のすべてのステーションおよび接続されているコンピュータを再起動する必要があります。下記の電源オフおよび再起動の項目をご参照ください。  
注意:万が一ホットプラグ後にキーボード・マウスが反応しなくなった場合、リセットボタン ( P.7参照 ) を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

#### ポートID番号

ユニットのコンピュータポートにはそれぞれ個別のポートIDが割り当てられています。このポートIDはステーション番号とポート番号の2つの番号で構成されています。

ステーション番号 - ディジーチェーン接続内でのステーション位置を示す2桁の数字。

ポート番号 - コンピュータが接続されているステーションのポートを示す2桁の数字。

ステーション番号 - ポート番号の順で表示されています。

1 ~ 9までのステーションおよびポート番号は、十の位に0がつきます。従って、01 ~ 09と表示されます。例えばステーション12のポート6に接続されたコンピュータは、ポートID 12-06となります。

#### 電源オフ、再起動

接続した本製品ユニットのうちの一つの電源を切り、再起動する必要がある場合は、まず本製品リアパネルの電源アダプタを抜いてください。

その後以下の手順に従ってください。

電源を切るユニットに接続している全てのコンピュータをシャットダウンしてください。

注意:キーボード起動機能がついているコンピュータが接続されている場合は、そのコンピュータの電源アダプタも抜かなければいけません。そうしないと電源が供給されている状態のままになっています。

10秒待った後、ステーションに電源アダプタを接続しなおしてください。

ステーションが起動した後、コンピュータの電源を入れてください。

注意:もし2台以上のステーションをシャットダウンした場合は、まず最上部のステーションの電源をオンにし、その後順に上部から下部へと電源をオンにしてください。

### ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによって、キーボードから直接特定のコンピュータにKVMコントロールを切替えることができます。本製品は、以下のようなホットキーポートアクセス機能を備えています。

アクティブなポートの選択

オートスキャン

前後のポートへの切替え

### ホットキーモードの呼び出し

ホットキーによる全ての操作は、まずHKM( ホットキーモード ) を呼び出してから行います。ホットキーモードの呼び出しは、次の手順で行います。

[Num Lock]キーを押したまま

[\*]アスタリスクキーまたは[-]マイナスキーを押し、すぐに離します。

[Num Lock]キーを離します。

[Num Lock] + [\*] or [Num Lock] + [-]

注意:アスタリスク、マイナスキーは押下してからすぐに( 0.5秒ほど )離すようにしてください。そうしないと入力が無効になります。

### ホットキーモードが有効になったら

Caps LockとScroll LockのLEDが交互に点滅し、HKMが有効になったことを示します。

画面にコマンドラインが表示されます。青い背景に黄色の文字で、入力したホットキーコマンドが表示されます。

通常のキーボード・マウス入力は無効になり、ホットキー入力およびマウスのクリックのみが有効になります。

ホットキーモードではテンキー使用に制限があります。[-]マイナスキーは使用できますが、数字の入力は無効となり、対応する矢印キーとして動作してしまいます。数字の入力はキーボード上部のキーを使用してください。

[Esc]を押すとHKMを終了します。

### アクティブなポートの選択

それぞれのCPUポートは、ポートIDを割り当てられています(ポートID番号、P.11参照)。ホットキーを用いて、このポートIDを指定することによりCPUポートに接続されたコンピュータに直接アクセスすることが可能になります。以下の手順に従って入力して下さい。

HKMを有効にしてください(上記参照)

切替えるコンピュータのポートID番号を入力

ポートID番号はディスプレイ上にコマンドラインにて表示されます。もし間違った番号を入力した場合は[Backspace]キーにて修正してください。

[Enter]キーを押してください。

KVMは指定されたポートIDに接続されたコンピュータに切り替わり、ホットキーモードは自動的に解除されます。

### オートスキャン

オートスキャンモード時は、現在のオペレータがアクセス可能なすべてのCPUポートに対し、一定の間隔(Scan/Skip Mode:P.18参照)で切替えながらディスプレイ表示をします。この機能は複数のコンピュータの動作を自動的に監視するのに便利です。

### スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートを表示するインターバル時間の設定は、OSDのF3 SET機能(P.18参照)で行いますが、以下のホットキー操作によっても設定変更が可能です。

HKMを有効にしてください(上記参照)

## ホットキー操作(続き)

### スキャンインターバルの設定(続き)

[T]、[n]とキー入力してください。  
[T]は[T]キー、[n]は任意の数字です。1～255秒の間で設定してください。  
[T]のキーと入力した数字はコマンドライン上に表示されます。もし間違った場合は[Backspace]キーで修正してください。  
[Enter]キーを押してください。  
[Enter]キーを押した後は、自動的にHKMは解除され、指定のとおりオートスキャンモードを実行する設定になっています。

### オートスキャン呼び出し

オートスキャン開始のホットキーは以下の通りです  
HKMを有効にしてください(P.12参照)  
[A]キーを押してください。  
[A]キーを押した後、自動的にHKMは解除され、オートスキャンモードになります。  
オートスキャンモードで動作中、特定のポートで[P]キーを押す、もしくは、マウスの左クリックを行うと一時停止状態になります。この状態の時は、コマンドライン表示により、Scan: Pausedと表示されます。オートスキャン状態をストップするには2つの方法があり、一つがこの一時停止機能です。一時停止機能はオートスキャンモードを完全に終了させるよりも便利です。オートスキャンを終了してしまうと、次に再開したときは構成の最初のコンピュータからスキャンを行うこととなりますが、一時停止からのスキャン再開は、停止していたポートの次のポートからスキャンされます。一時停止からの再開は、任意のキーを入力する、もしくはマウスを左クリックしてください。  
オートスキャンモード時は、通常のキーボード入力とマウス機能は無効になります。オートスキャン中に実行可能なキー入力とマウスクリックのみ可能となります。通常のキー入力を行う場合は、オートスキャンモードを終了してください。  
オートスキャンモードを完全に終了する場合は、[Esc]または[スペースキー]を押します。この操作によって、いつでもオートスキャンモードを終了させることができます。

### スキップモード

この機能では、コンピュータからコンピュータへの切替えを手動で行います。一定間隔で自動的に切替わるオートスキャンモードとは違って、スキップモードでは特定のポートを表示させておく時間を自由に決めることができます。以下のホットキーによって、スキップモードを実行することができます。  
HKMを有効にしてください(P.12参照)  
[矢印]キーを入力してください  
キーボードの[矢印]キーを使います。矢印キーを押した後は、自動的にHKMは解除されます。以下のホットキーの組み合わせを入力してください。  
[ ]を押すと、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。  
[ ]を押すと、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。  
[ ]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在1台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。  
[ ]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。  
一旦スキップモードを実行すると、矢印キーを押す度に、スキップ操作を実行できます。毎回ホットキーモード呼び出しの操作をする必要はありません。  
スキップモードを実行している間、通常のキーボードとマウス機能は、サスペンドされます。スキップモード中に有効なキー入力のみ可能となります。通常のキー操作をする必要がある場合は、スキップモードを終了してください。  
スキップモードを終了するには、[Esc]または[スペースキー]を押してください。

## ホットキー操作(続き)

### ホットキービープ音コントロール

ビープ音のオン/オフはOSDファンクションで設定しますが(P.20参照)、ホットキーでも設定可能です。ホットキー組み合わせは以下のようになっています。  
HKMを有効にしてください(P.12参照)。  
[B]キーを押してください。  
[B]キーを押すと、ビープ音オン/オフが切替わります。設定確認のために、コマンドラインでBeeper On/Beeper Offの文字が1秒間表示されます。また操作後にHKMは自動的に解除されます。

### ホットキー一覧表

「Num Lock」+「*」	「ポートID」「Enter」	入力したポートIDのポートに接続されたコンピュータにアクセスします。
	「T」「n」「Enter」	オートスキャンのインターバルを設定します。[n]は秒数を示し、1～255秒の間で設定します。
	「A」	オートスキャンモードを実行します。オートスキャンモード時は、[P]または左クリックで一時停止になります。オートスキャンが一時停止状態で、任意のキーを押す、または左クリックすることによって、オートスキャンを再開します。
	「 」	スキップモード時に、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	「 」	スキップモード時に、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	「 」	スキップモード時に、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在1台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	「 」	スキップモード時に、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	「B」	ビープ音のオン/オフを交互に切替えます。

### OSD概要

OSD(オンスクリーンディスプレイ)はメニュー形式で表示され、KVMスイッチに接続されているコンピュータの操作・切替えを行う機能です。すべての操作はOSDメイン画面から始めます。OSDメイン画面を表示するには[Scroll Lock]キーを2度押します。

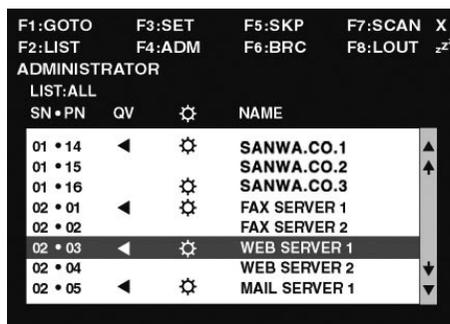
注意:OSDを表示するホットキーは、[Scroll Lock]キー2度押しから[Ctrl]キー2度押しに変更することもできます。(P.18参照)。この場合の[Ctrl]キーはキーボードの同じサイドのものを使ってください。

OSDは2レベル(アドミニストレーター/ユーザー)のパスワード保護がされています。OSDメイン画面が表示される前に、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。管理者によってパスワードが設定されている場合は、OSDメイン画面にアクセスするには有効なユーザーネームとパスワードを入力しないとけません。

OSDの初回起動時、パスワードはまだ設定されていません。ログインするには入力画面で[Enter]キーを2度押してください。OSDメイン画面はアドミニストレーターモードで表示されます。このモードではユーザーはアドミニストレーター権限を持ち、パスワードの設定も含めすべての機能を使用することができます。



OSDが起動すると、このような画面が表示されます。



#### 注意:

この画面はアドミニストレーターモードのもので、ユーザーモードではアドミニストレーターのみが使用できるF4、F6ファンクションは表示されません。OSDは常にリスト表示され、選択時に使用するハイライトバーは前回OSD終了時の位置を復元して表示されます。ユーザーモードでは、管理者によってそのユーザーにアクセス権限が与えられているポートのみが表示されます。

### OSDナビゲーション

メニューを閉じてOSDを終了するには、OSDメイン画面右上にある×マークをクリックするか、[Esc]キーを押してください。

ログアウトするにはOSDメイン画面上部の[F8]またはZZZマークをクリックするか、[F8]キーを押してください。

リスト表示の上下の行に移動したい場合は、三角マーク(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下の矢印キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。

リスト表示の画面を上下に切替えたい場合は、矢印マーク(←→)をクリックするか、キーボードの[Page Up] [Page Down]キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。

KVM操作するポートを切替える場合は、リスト画面でクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。

何らかのアクションを実行したあとは、自動的に一段上のメニューに戻ります。

### OSDメイン画面説明

見出し	説明
PN	この項目はポートID番号(ポートID番号の詳細は、P.11を参照)です。すべてのコンピュータポートに番号があります。簡単な切替え方法としてハイライトバーを移動し[Enter]を押すこともできます。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.20を参照)すると、QVの項目には矢印が表示されます。
⚙️	電源がオンになっていて、かつオンラインになっているコンピュータはこの太陽マークが表示されます。
Name	ポートに対して名前を登録(ポートネーム編集の詳細は、P.19を参照)した場合、この項目にポートネームが表示されます。

### OSDファンクション

OSDファンクションでは、OSD操作に関する以下のような設定を行います。

- 任意のポートへのクイックアクセス
- 特定のポートのオートスキャン
- ポートへのアクセス権限の設定
- クイックビューポートの設定
- ポートネームの編集
- ユーザー管理
- システム管理
- OSD設定

OSDファンクションにアクセスするには

メイン画面上部にあるファンクションキーをクリック、またはお使いのキーボードのファンクションキーを押してください。

サブメニューの選択は、サブメニュー名をダブルクリックするか、リスト表示でハイライトバーを移動させ、「Enter」キーを押してください。

[Esc]キーを押すと一段上のメニューに戻ります。

## OSD操作(続き)

### F1 GOTO

F1 GOTO機能により、直接ポートネーム、もしくはポートIDを入力することで、ポート切替えが可能です。切替えにポートネームを使用する場合は、まず[1]キーを押し、ポートネームを入力後[Enter]を押してください。切替えにポートID番号を使用する場合は、まず[2]キーを押し、ポートID番号を入力後[Enter]を押してください。

注意: ポートネーム、もしくはポートIDの頭文字を入力すると、条件に当てはまるポートがリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細はP.20参照)。ポートネームとポートIDのリスト表示は設定に依存します(詳細はF2 LIST参照)。

選択をしないでOSD画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

### F2 LIST

この機能を用いて、OSDがメイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりすることができます。OSDファクションの多くは、メイン画面のリストに表示されている中から、選択されたコンピュータだけを操作します。下記の表は、サブメニュー画面の選択肢とその意味です。

設定	機能
ALL	コンピュータが接続されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW*	クイックビューポート(P.20参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	電源が入っているコンピュータに接続されているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.20参照)として選択され、かつ電源がオンのコンピュータが接続されたポートをリストアップします。

アドミニストレーターのみがクイックビューポートの設定を行うことができます(詳細は、P.20を参照)。

ポートを選択するには、リストでハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。切替わるとアイコンが現われ、現在選択したポートIDを表示します。

### F3 SET

F3 SETでは各ユーザーの使用環境の設定をします。それぞれのプロファイルはOSD内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。設定変更をするには、F3 SETの項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。

次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は次ページのリストをご参照ください。

## OSD操作(続き)

### F3 SETの(続き)

設定	機能
OSD HOTKEY	OSDメインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] 2度押しまたは [Ctrl] 2度押し [Ctrl]キーの組み合わせは、コンピュータで使用中のプログラムに対して不都合がある可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キーの組み合わせになっています。
PORT IN DISPLAY POSITION	画面のどこにポートIDディスプレイを表示するかを決めます。デフォルトでは画面の左上ですが、画面の任意の位置にポートIDを表示することができます。ポートIDの表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SETのサブメニュー画面に戻します。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、ディスプレイ画面にポートIDを表示する時間を決定します。 User Defined:ユーザー設定(1~255秒間) Always On:ポートIDを常に表示 User Definedを選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは3秒間です。0秒で設定するとこの機能を使用不可にします。
PORT ID DISPLAY MODE	ポートID表示方法を選択します。ポート番号のみ(PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ(PORT NUMBER + PORT NAME)があります。デフォルトではポート番号とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード(P.21のF7 SCANをご参照ください)で選択されたポートそれぞれを循環して表示する際のインターバル時間を設定します。1~255秒までの秒数を入力し、その後[Enter]を押してください。デフォルトは5秒間です。0秒で設定するとSCAN機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード(P.21をご参照ください)とオートスキャンモード(P.21をご参照ください)を実行する際、どのコンピュータにアクセスするかを設定します。選択方法は以下の4つです。 ALL - ユーザーがアクセス可能な全てのポート(P.20参照) POWERED ON - アクセス可能で、かつ電源がオンのポートのみ QUICK VIEW - アクセス可能で、かつクイックビューポート(P.20参照)として設定されたポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON - アクセス可能で、クイックビューポートとして設定され、かつ電源がオンのポートのみ デフォルトは、ALLになっています。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力が無い場合、画面はブランクになります。1~30分までの時間を入力してから、[Enter]を押します。0分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは0分(不可)となっています。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの機能を使用可能/不可を切替えます。デフォルトではON使用可能になっています。

## OSD操作(続き)

### F4 ADM

F4 ADMはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターはOSDの操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面でF4 ADMをダブルクリックするか、または上下の矢印キーを使ってハイライトバーを移動させ、[Enter]を押します。

設定したい項目を選択すると、その下のサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで移動させたあと、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下記の表の通りです。

設定	機能
SET USERNAME AND PASSWORD	この機能でユーザー名とパスワードを設定します。 アドミニストレーター1人およびユーザー4人のパスワードが設定できます。 ユーザーフィールド、またはアドミニストレーターフィールドのうち、1つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは英数字(A~Z, 0~9)のうち、最大12文字までの組み合わせが可能です。 各人のユーザー名とパスワードを入力したあと、[Enter]を押します。 以前のユーザー名またはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を[バックスペースキー]を用いて消してください。 注意:ユーザー名とパスワード情報をすべて消去して工場出荷時の状態に戻すには、P.30のログイン情報の消去をご参照ください。
SET LOGOUT TIMEOUT	この機能で設定した時間、コンソールからの入力が無い場合、オペレータは自動的にログアウトされ、コンソールを再び使用する前にもう一度ログインが必要となります。 この機能はあるオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの設定は、1~180分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0分で設定すると、この機能を使用不可にします。 デフォルトは0分(不可)となっています。
EDIT PORT NAMES	どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。 ポートネームを編集するには、 編集したいポートをクリックするか、そこにナビゲーションキーを使ってハイライトバーをそこに移動させます。そして、[Enter]を押します。 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正、または、削除してください。最大文字数は12文字で、以下の文字が使用できます。 アルファベット全: a~z ; A~Z 数字全: 1~9 記号: + - / : およびスペース 大小文字は関係ありません。OSDではすべて大文字で表示されます。 ポートネームの編集が終了したときは、[Enter]を押して、その変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻します。ただし、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定だけは、保持されます。
CLEAR THE NAME LIST	この機能はRESTORE DEFAULT VALUESとよく似ていますのでご注意ください。異なる点は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定をも削除します。

## OSDでの切り換え(続き)

### F4 ADM(続き)

設定	機能
ACTIVATE BEEPER	ビーブ音の設定を行います。Y(ビーブ音有)を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.21参照)が有効になっている時、または、OSDメニューで無効な入力された時は常にビーブ音が鳴ります。デフォルトはY(有)となっています。
SET QUICK VIEW PORT	どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。 注意:現在OSD画面でリストビューとして選択されているポートのみが表示されます。 クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、クイックビューポートにしたものをダブルクリックするか、上下の矢印[ ] [ ]キーを使用してハイライトバーを移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、矢印は表示されません。 F2 LIST(P.17参照)にクイックビューオプションの一つが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 もし、オートスキャン機能(P.21をご参照ください)にクイックビューのオプションのうち一つが選択された場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET ACCESSIBLE PORT	この機能でアドミニストレーターはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、そのあと[スペースキー]を押して、F(フルアクセス) / V(見るのみ) / ブランクという選択肢の間を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの動作を繰り返し、それから[Esc]を押します。デフォルトは、全てのポートの全てのユーザーに対し、F(フルアクセス)となっています。 注意:ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストには表示されません。
RESET STATION IDS	ディジーチェーン内のステーション構成を変更した場合、OSDは変更後の状態を即座に反映させることができません。この機能を実行してOSDで構成の再検出を行い、新しい物理的構成をリスト表示させる必要があります。 注意:この機能でアップデートされるのはステーション番号のみです。ポートネーム、アドミニストレーター権限による設定(アクセス可能ポートの設定、クイックビューポートの設定等)を除いて、ステーション構成の変更によって影響を受けるすべての設定は手動で設定しなおさなくてはなりません。
FIRMWARE UPGRADE	本製品のファームウェアをアップグレードする場合(P.23参照)は、最初にこの機能でファームウェアアップグレードモードにしなくてはなりません。 このメニューを起動すると、現在のファームウェアバージョンが表示されます。[Y]を押すとファームウェアアップグレードモードになり、[N]を押すとこのメニューを終了します。

## F5 SKP

F5 SKPをクリックするか、または[F5]を押して、スキップ(SKP)モードを呼び出します。この機能により、現在表示しているコンピュータの前後の有効なポートに簡単にスキップすることができます。

スキップモードによる切替えが利用できるコンピュータは、F3 SETのSCAN/SKIP MODE( P.18 参照)で選択します。

スキップモードの操作は以下の通りです。

[ ]を押すと、リスト表示中の一つ前のコンピュータに切替わります。

[ ]を押すと、リスト表示中の一つ後ろのコンピュータに切替わります。

[ ]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

[ ]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

注意:スキップ機能で切替えるときは、SCAN/SKIPモードで選択されているポートに移動します。

もし、ポートがスキャン/スキップモードとして選択されていたならば、ポートIDディスプレイの前に左/右向き三角形が表示されます。(フォーカスがそのポートに切替わるとき)

スキップモードが有効になっている時には、コンソールは機能しません。コンソールを使用するには、スキップモードを解除してください。

スキップモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

## F6 BRC

F6 BRCブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが利用できる機能です。F6 BRCをクリックするか、[F6]を押して、BRCブロードキャストモードを呼び出してください。この機能は有効にすると、コンソールから送られたコマンドは接続中の利用できるコンピュータ全てに実行されます。

この機能は、広くシステムをシャットダウンさせたり、アップグレードさせるソフトウェアをインストールしたりするなど、複数のコンピュータを操作する必要がある時に、非常に便利です。

BRC機能は、F2 LIST( P.17参照)と併せて使用します。LIST機能はOSDメイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりするのに使用されます。OSDメイン画面に現在表示されたポートに対して、コマンドを同時に実行します。

BRCモードが有効な時は、現在KVM操作をしているポートのポートIDディスプレイの前にスピーカーマークが表示されます。

BRCモードが有効な間は、マウスが機能しません。マウスを使用するときは、BRCモードを解除してください。

BRCモードを解除するには、ホットキーでOSDを呼び出し、それからF6 BRCをクリックするか、[F6]を押してください。

## F7 SCAN

F7 SCANをクリックするか、[F7]を押すと、オートスキャンモードが呼び出せます。この機能は一定間隔にて設定されたコンピュータを自動的に切替えて表示することができます。これにより、手動で切替える手間をかけずに複数のコンピュータの動作を監視できます。

F3 SETで設定されたSCAN/SKIP MODE( P.18参照)を使用して、オートスキャンするコンピュータを選択します。

各ポートを表示する時間は、F3 SET機能のSCAN DURATION( P.18参照)で設定できます。

各コンピュータにオートスキャンモードでアクセスされている場合、ポートIDディスプレイの前にSの文字が表示されます。

## F7 SCAN(続き)

オートスキャンモード中、スキャンを一時停止して特定のコンピュータにフォーカスしたい場合は、[P]を押すかマウスの左ボタンをクリックしてください。詳しくは、P.13のオートスキャンの呼び出しをご参照ください。

スキャンを停止して特定のポートにアクセスする場合は、そのポートをスキャン中、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを終了してください。もしスキャンがコンピュータの接続されていないポートにある、または接続されているが電源オフになっているポートに来ている場合は、モニタ画面はブランクになり、マウスやキーボードは機能しません。SCAN DURATIONで設定した時間経過後、表示は次のポートへと移動します。

オートスキャンモードが動作中は、コンソールは機能しません。コンソールを使用する場合は、オートスキャンモードを解除してください。

オートスキャンモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

## F8 LOUT

F8 LOUTをクリックするか[F8]を押すと、コンピュータのOSD操作からログアウトし、コンソール画面をブランク(空白)にします。この操作は、OSD画面から出るために[Esc]を押すのとは異なります。[Esc]操作では、再度OSD画面を表示するためにはOSDホットキーを押すだけなのに対し、この機能ではOSDにアクセスするのに、再度ログインしなければなりません。

注意:

OSDからログアウト後に再びOSDを表示した場合、OSDメインメニュー以外は表示されません。ユーザーネームとパスワードを入力後、使用可能になります。

ログアウト後に再びOSDを表示し、メニューからポートを選択しないで[Esc]キーを使用してOSDを閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面にはNull Port無効ポートメッセージが表示されます。

## ファームウェアアップグレードユーティリティ

Windowsベースのファームウェアアップグレードユーティリティは、スムーズかつ簡単な操作でKVMスイッチのファームウェアをアップグレードすることができます。

ファームウェアアップグレードパッケージはデバイス別に用意されています。新しいファームウェアパッケージは弊社webサイトで公開されます。機器を最新の状態に保つために、定期的に弊社webサイトをご覧ください。

<http://www.sanwa.jp/>

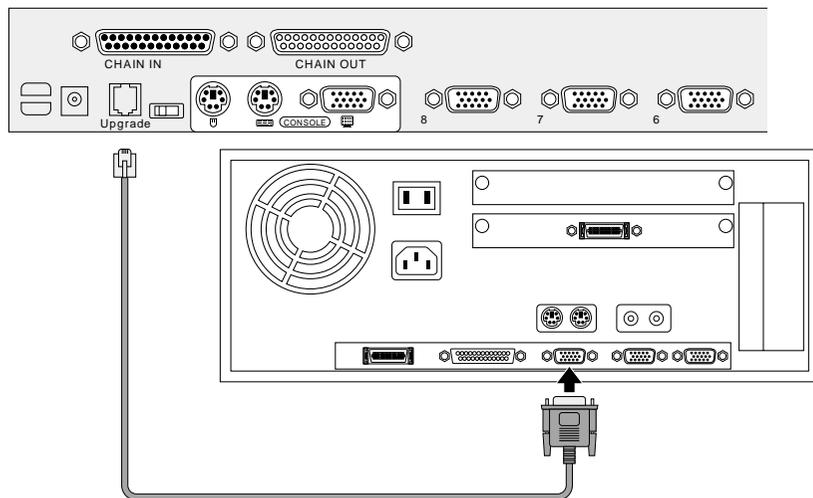
### アップグレードの前に

ファームウェアアップグレードの前に以下の手順に従って準備を行ってください。

KVMスイッチに接続されているコンピュータとは別に、インターネット接続可能なコンピュータを用意してください。弊社webサイトにアクセスして製品型番で検索し、ファームウェアのリストから必要なパッケージを選択してください。

最新版のファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードし、コンピュータの任意のディレクトリに保存してください。

同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用して、ファームウェアアップグレードパッケージを保存したコンピュータのCOMポートと本製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



注意:KVMをディジーチェーン接続をしている場合は、ディジーチェーンケーブルを通してアップグレードデータが構成のすべてのKVMスイッチに送られます。

KVMスイッチのポートに接続されているすべてのコンピュータの電源をオフにしてください。KVMの電源はオンのままにしておいてください。

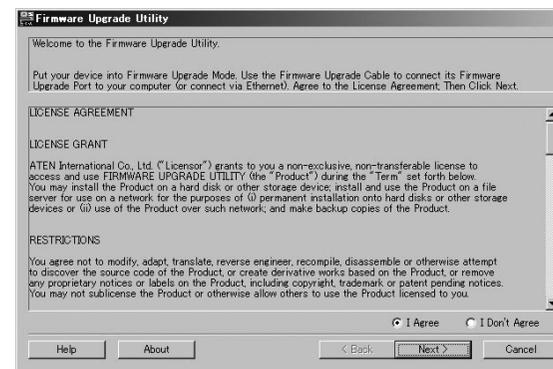
本製品に接続したコンソールでOSD画面を起動し、F4 ADMファンクションを呼び出してください。FIRMWARE UPGRADEを選択し、[Enter]を押して機能を呼び出してください。現在のファームウェアのバージョンが表示されます。ダウンロードしたパッケージのバージョンが新しいことを確認したら、[Y]を押してファームウェアアップグレードモードを実行します。

## ファームウェアアップグレードユーティリティ(続き)

### アップグレード開始

以下の手順に従ってアップグレード作業を進めてください。

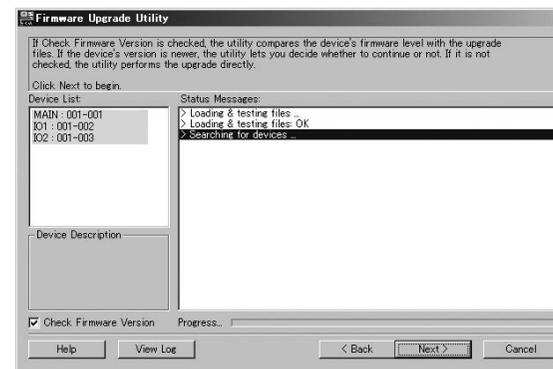
ダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをダブルクリックまたはコマンドラインでフルパスを入力して実行します。以下のようなライセンス認証確認画面が表示されます。



注意:実際に表示される確認画面はこのスクリーンと異なる場合があります。

ライセンス規約に同意したら「I Agree」ラジオボタンをオンにして、「Next」を押して次に進んでください。

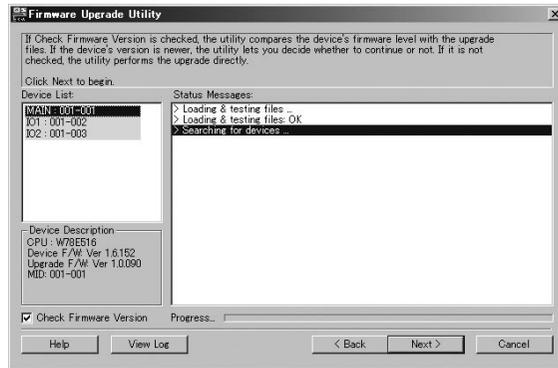
「Next」を押すとファームウェアアップグレードユーティリティ メイン画面が表示されます。Device Listフィールドに、アップグレード可能なデバイスが表示されます。



## ファームウェアアップグレードユーティリティ(続き)

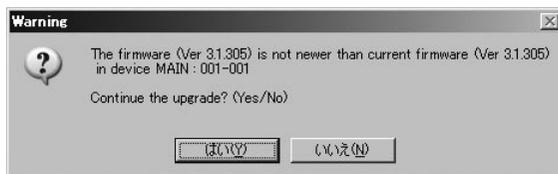
### アップグレード開始(続き)

「Device List」フィールドで選択されたデバイスの詳細が、画面左下の「Device Description」パネルに表示されます。



デバイスを選択後、「Next」をクリックしてアップグレードを実行します。

Check Firmware Versionにチェックが入っている場合は、ユーティリティは現在のファームウェアバージョンとアップグレードパッケージのバージョンを比較します。もし現在使用のバージョンがアップグレードパッケージよりも高い場合は、このようなダイアログボックスが表示され、アップグレード実行継続/中止の確認を行います。

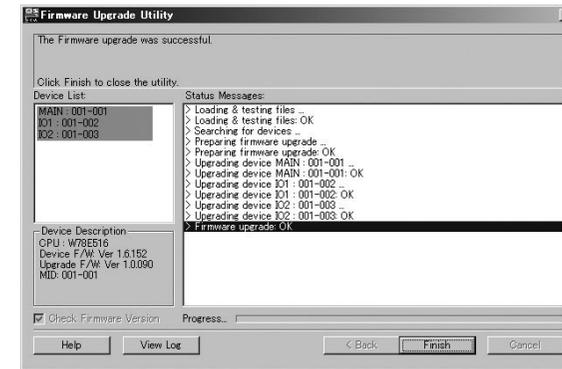


Check Firmware Versionにチェックが入っていない場合、ユーティリティはバージョン比較をせずにアップグレードを行います。アップグレードの進捗状況はステータスフィールドとプログレスバーで表示されます。

## ファームウェアアップグレードユーティリティ(続き)

### アップグレード成功

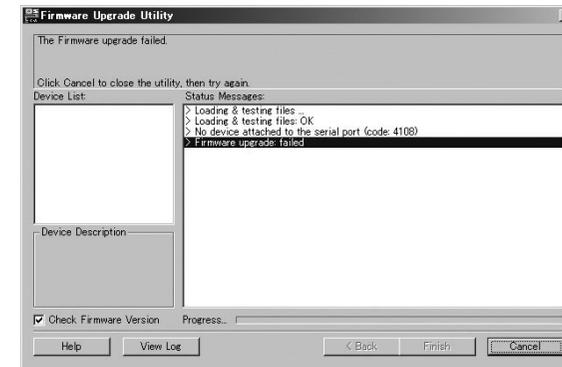
アップグレード完了後、アップグレード成功のメッセージが表示されます。



「Finish」を押してファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

### アップグレード失敗

アップグレード成功画面が表示されない場合は、アップグレードが正常に終了しなかったことを意味します。次ページのファームウェアアップグレードリカバリーに従って、アップグレードを完了させてください。



### ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となるのは以下の3つの場合です。

- ファームウェアアップグレードモードを有効にしたが、その後アップグレードを行わなかった場合。
- メインボードのファームウェアアップグレードが失敗した場合。
- I/Oファームウェアアップグレードが失敗した場合。

ファームウェアアップグレードリカバリーは以下の手順に従って行ってください。

KVMの電源をオフにしてください。ディジーチェーン接続を行っている場合は、構成から外してください。

ファームウェアアップグレードケーブルを本体リアパネルのファームウェアアップグレードポートに接続してください。

ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Recover」ポジションにしてください。

KVMの電源をオンにしてください。(KVM前面のポートLEDが点滅した状態になります)

P.24の手順より同様に作業を進めてください。

KVMのアップグレードが成功したら、電源をオフにし、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Normal」ポジションに戻してください。

ディジーチェーン接続を行っていた場合は、KVMを構成に戻してください。

KVMの電源をオンにしてください。

#### 注意:

もしディジーチェーン接続のままファームウェアアップグレードを行い、スレーブユニットでアップグレード失敗が発生した場合は、そのユニットを構成から外し、単独でアップグレードを行ってください。アップグレード成功後、構成の中に戻してください。

### コンピュータ接続表

以下の表は切替器本体の台数とディジーチェーン接続を利用して接続できるコンピュータの最大数の関係を示したものです。

#### SW-KVM8HG

切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ
1	1 - 8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201 - 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49 - 56	15	113 - 120	23	177 - 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

#### SW-KVM16HG

切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ	切替器本体	コンピュータ
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97 - 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512

### OSDデフォルト設定一覧

工場出荷時のOSDデフォルト設定は以下の表のようになっています。

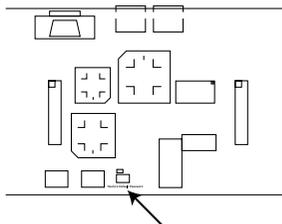
項目	初期設定
OSD Hotkey	[Scroll Lock] 2度押し
Port ID Display Position	画面右上隅
Port ID Display Duration	3秒
Port ID Display Mode	ポート番号+ポートネーム
Scan Duration	5秒
Scan/Skip Mode	ALL
Screen Blanker	0秒(使用不可)
Logout Timeout	0秒(使用不可)
Beeper	Y(ビープ音有り)
Accessible Ports	F(フルアクセス)-すべてのユーザーがすべてのポートにアクセス可能

## 付録(続き)

### ログイン情報の消去

パスワードを忘れる、その他何らかの理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

KVMの電源をオフにして、本体ケースを開けてください。  
右図で示した場所にある、Restore Default Passwordと書かれているジャンパスイッチをショートさせてください。



そのままKVMの電源をオンにしてください。ディスプレイに以下のようなメッセージが表示されます。

USER NAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.  
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER,  
CLOSE THE CASE, THEN RESTART.

KVMの起動後、OSDのログインパスワードは工場出荷時の状態に戻っています。

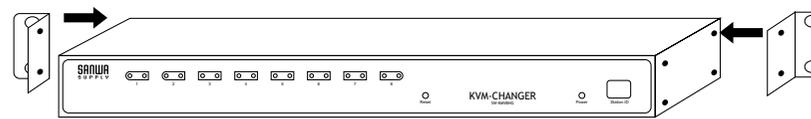
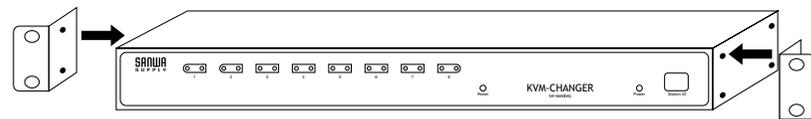
### 仕様

	SW-KVM8HG	SW-KVM16HG
対応パソコン	DOS/V機(PS/2マウスコネクタ・PS/2キーボードコネクタ・ミニD-sub15pinディスプレイコネクタを持つ機種)	
対応キーボード	PS/2キーボード(ミニDIN6pinコネクタ)	
対応マウス	PS/2マウス(ミニDIN6pinコネクタ) シリアルマウスは対応していません。	
対応モニター	ミニD-sub15pinのコネクタを持つマルチスキャンディスプレイ ※解像度1920×1440まで表示可能。 ※高解像度で使用すると御使用のモニターによっては画質が悪くなることがあります。 ※液晶モニターの多くはマルチスキャンディスプレイではありません。 液晶モニターをご使用になる場合はPC側の設定でリフレッシュレート(走査周波数)を表示可能な値に設定してください。変更方法は各モニターの取扱説明書をご覧ください。	
対応OS	Windows XP/Me/98(含SecondEdition)/95/3.1/2000, NT4.0/3.5/Linux	
最大パソコン接続数	ダイレクト接続時:8台カスケード接続時:256台	ダイレクト接続時:16台カスケード接続時:512台
切替方式	手動ボタン、OSD(オンスクリーンディスプレイ)、キーボードからのホットキー切替	
インターフェース(パソコン用)	ディスプレイ:ミニD-sub15pin(オス)×8 PS/2キーボード:ミニDIN6pin(メス)×8 PS/2マウス:ミニDIN6pin(メス)×8	ディスプレイ:ミニD-sub15pin(オス)×16 PS/2キーボード:ミニDIN6pin(メス)×16 PS/2マウス:ミニDIN6pin(メス)×16
インターフェース(コンソール用)	ディスプレイ:ミニD-sub15pin(オス)×1 PS/2キーボード:ミニDIN6pin(メス)×1、PS/2マウス:ミニDIN6pin(メス)×1	
電源仕様	定格入力電圧:AC100V(50/60Hz) 定格入力電流:800mA、最大消費電力:7.5W	定格入力電圧:AC100V(50/60Hz) 定格入力電流:800mA、最大消費電力:8W
動作時温度/湿度	0~40°C/80%以下(結露なきこと)	
保存時温度/湿度	-20~60°C/80%以下(結露なきこと)	
サイズ	W433×D155×H44mm	
重量	2.6kg(本体のみ)	2.8kg(本体のみ)

## ラックマウント

本製品は19インチサーバラックに1Uサイズでマウント可能になっています。ラックの手前側・奥側のどちらでも設置できるように設計された付属のラックマウントタブを本体にネジ止めしていただくだけでマウント準備は完了します。タブの取付けは下図を参考にして、以下の手順で行ってください。

ラックマウントタブを本製品ユニットの側面、フロントパネル側またはリアパネル側にネジ止めします。ユニットをラックにスライドさせて収納し、しっかりとネジ止めしてください。



## トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
動作が不安定	供給電力が不十分	同梱の電源アダプタが適切に接続されているか確認してください。
キーボード/マウスが反応しない	キーボード/マウスのリセットができていない	コンソールポートに接続したキーボード・マウスのケーブルを抜き差ししてみてください。
ディジーチェーン接続で、ステーションIDがすべて01と表示される	本来のステーション01への電力供給が突然失われた	しばらく待つとユニットが自動的にステーション位置を検出し、適切なステーションID番号を表示します。

## 保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。

## 免責

本製品の使用中に発生したデータやプログラムの消失についての保証はいたしかねます。  
本製品のカバーを開けたり、分解したりしないでください。故障の原因となります。  
本製品を水分や湿気の多い場所、直射日光のあたる場所、ホコリや湯煙などの多い場所、車中や暖房器具のそばなどの高温となる場所に設置したり保管したりしないでください。

切取線

## 保証書

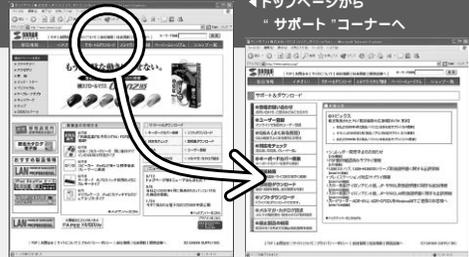
型番		SW-KVM8HG・SW-KVM16HG	
シリアルナンバー			
お客様	お名前		
	ご住所	〒	
販売店	TEL		
	販売店名・住所・TEL		
担当者名			
保証期間 12ヶ月		ご購入年月日 年 月 日	

最新の情報はインターネットで!!  
<http://www.sanwa.co.jp/>

サポート情報  
ドライバのダウンロード  
よくある質問(FAQ)  
各種対応表

など、最新情報を随時更新しています。

ご質問、ご不明な点などがございましたら、  
ぜひ一度、当社ウェブサイトをご覧ください。



## サンワサプライ株式会社

岡山サブライセンター / 〒700-0825 岡山市田町1-10-1 ☎086-223-3311 FAX.086-223-5123  
東京サブライセンター / 〒140-8566 東京都品川区南大井6-5-8 ☎03-5763-0011 FAX.03-5763-0033  
札幌営業所 / 〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目ストークマンション札幌 ☎011-611-3450 FAX.011-716-8990  
仙台営業所 / 〒983-0851 仙台市宮城野区権町1-6-37 宝栄仙台ビル ☎022-257-4638 FAX.022-257-4633  
名古屋営業所 / 〒463-0015 名古屋市中村区権町1-6-7 カジヤマビル ☎062-453-2031 FAX.062-453-2033  
大阪営業所 / 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-45 新大阪八千代ビル ☎06-6395-5310 FAX.06-6395-5315  
福岡営業所 / 〒812-0012 福岡市博多区博多駅前中央街8-20 第2博多相互ビル ☎062-471-6721 FAX.062-471-8078  
金沢 / ☎076-222-8384

最新の情報はインターネットで! <http://www.sanwa.co.jp>